

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立津高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーが育つ学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ol style="list-style-type: none"> 1 日常において「自主・自律」を実践できる、知・徳・体の調和のとれた生徒 2 主体的に学び、自らを律し、粘り強く努力することで、生涯にわたって自己実現を図るとともに、心豊かで、高い志を抱いて社会に貢献できる生徒
	ありたい 教職員像	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもたちに対する愛情にあふれ、豊かな人間性、人権感覚を備えた教職員 2 目指す学校像の実現に向け、前向きでチャレンジ精神にあふれた組織風土の中で、自らの専門性を高め、「チーム」として協力し合って教育活動に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・質が高く、能動的に取り組むことができる授業 ・安全・安心で充実した学校生活と一人ひとりが大切にされる教育活動 ・総合的な学力の伸長と進路希望の実現 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学力と人間力の伸長、進路希望の実現に向けた教育活動の充実 ・安全・安心な学習環境 <p><地域社会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で信頼される「公立進学校」として、将来の社会を支える市民を育成 ・地域の活性化につながる教育活動 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心な学校生活・学習環境 ・子どもの人間的成長と進路希望実現 <p><地域社会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の学力および人間力の伸長 ・学習活動における連携・協力 2 地域社会 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとしての資質や態度の育成 ・地域活動への生徒の積極的な参加 3 大学、研究機関等 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的研究への理解と興味・関心の喚起 ・人的、物的な教育資源の活用 4 卒業生（同窓会） <ul style="list-style-type: none"> ・「自主・自律」の伝統の継承 ・生徒が高い志（進路希望）を実現 	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校教育方針への理解と協力 ・相互の信頼に基づく意思疎通 <p><地域社会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における連携・協力 2 地域社会 <ul style="list-style-type: none"> ・市民性、社会性を育む学習機会の提供 3 大学、研究機関等 <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な研究活動の機会や場の提供 ・生き方や進路等を考える機会の提供 4 卒業生（同窓会） <ul style="list-style-type: none"> ・「自校教育」の機会の提供 ・生き方や進路等を考える機会の提供

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒アンケートで「学校へ行くのが楽しい」「学校行事に楽しく積極的に参加できている」の項目で肯定的な回答の割合が非常に高い（95～96%）ことが評価された一方で、「意欲的に学習に取り組んでいる」「気軽に相談に応じてくれる先生がいる」の項目では、肯定的な回答の割合は多いものの、76～77%にとどまっていることから、原因を分析し、改善に努めていくことが今後求められる。 ○ 学校のホームページが刷新され、大変見やすい情報発信となったことが評価された一方で、保護者の立場からは、情報発信の中の「進学実績」という結果的な数値に大きく注目してしまうという指摘があったことから、生徒が高い志を持ち、意欲的に学習に取り組んで進路希望を実現できるよう、学校として一層尽力することが求められる。 ○ 学校図書館におけるさまざまな企画や活用が評価されたことから、本校の魅力を発信する要素の一つとして、強化することが大切である。 ○ 令和4年度から始まった一人一台端末の活用については、今後、小中学校で活用していた生徒が入学してくることから、授業での効果的な活用を引き続き研究していく必要がある。
	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自主・自律」の精神を受け継いでいくためにも、生徒の「主体的に学びに向かう力」が高まり、高い志の実現に向けて効果的な学習を「自走」することができるよう、学校全体で組織的に取り組んでいく必要がある。 ○「深い学び」を実現するために、一人一台端末やICT機器を効果的に活用して教育活動を進めていくことが求められる。 ○新教育課程をふまえ、授業改善や探究活動を核とするカリキュラム・マネジメントについて教科横断的な視点から進捗状況を把握しながら進める必要がある。 ○生徒の資質を多面的、多角的に把握し、人間力の伸長につながる指導ができるよう、研修等を通じて一層の力量の向上に努める必要がある。
<p>(4) 現状と課題</p>	<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度に刷新した学校のホームページを活用し、本校の教育活動が生徒にとってより魅力あふれるものになり、取り組み内容が中学生や保護者だけでなく県内全体に広く伝わるよう、効果的に情報発信をしていく必要がある。 ○一人一台端末やICT機器を授業において効果的に活用できるよう、使用スキル向上のための研修を効率的に取り入れるなど、教職員の負担にならないように進めていく必要がある。 ○生徒の抱えている問題が多様化していることから、保護者だけでなく、多様な外部専門機関と連携をさらに進めるとともに、適切に情報共有を図り、教職員が組織的に対応できるようにする必要がある。 ○スクールサポートスタッフ（SSS）の活用により、時間外労働時間縮減の取組は一定進んでいるが、会議時間の短縮や定時退校日の設定等に加えて、自動採点システムを全職員が利用するなどICTを効果的に活用することにより、一層の業務削減に取り組む必要がある。

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「高い志」「自主・自律の精神」を育成し、学習活動だけでなく、スポーツ活動・文化活動等、あらゆる側面で充実した高校生活を送ることができるよう、生徒一人ひとりの人間力を高める。 2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進、ICTを活用した取組等、授業を中心とした教科指導を充実し、「必要な力が生徒に育まれているか」という観点を大切にして、確かな学力の向上を図るとともに、入学から卒業まで見通した進路指導を充実することにより、生徒一人ひとりの自己実現・進路実現に取り組む。 3. 他者を思いやる心、生命・人権を尊重する心、政治的教養、倫理観、規範意識などを育む教育の充実に努め、生徒の豊かな人格形成や人間関係を構築する力の育成に取り組む。 4. 第IV期を迎えたSSH事業を全校体制で推進し、探究活動を核としてすべての教育活動につなげることで、生徒に「創造性」「国際性」「課題解決能力」を育み、国際社会で活躍し、世界を牽引する時代の科学技術人材を育成する。 5. 姉妹校（台湾）との交流を通じて、生徒が国際的な視野を広め、探究活動の深化をはかり、英語コミュニケーション能力の向上を図ることができるよう、相互訪問や共同研究の取組を進める。
-------------	--

1. 教職員の資質能力の向上に取り組むとともに、教職員同士が教え合い、協力し合うことによって、さまざまな課題に「チーム」として取り組み、生徒の「自主・自律」をサポートする、組織力ある学校づくりを行う。
2. 教育活動や学校運営について組織的・継続的な改善を図るとともに、学校・家庭・地域との連携を強化し、学校の取組を積極的に発信することを通して、学校力を高める。
3. 業務の精選、総勤務時間縮減に向けた取組や教職員の満足度向上に向けた取組を通して、教職員が情熱とやりがいを持って生徒に向き合い、健康で働くことのできる環境づくりを行う。
4. 学校図書館（津高図書館）は、これまで授業での図書館活用のほか、生徒の主体的な活動や探究的な学びの材料や機会を数多く提供してきたことを踏まえ、多くの生徒が読書に親しみ、図書館を有効に活用することが他校の図書館にも波及する取組となるよう、図書館運営の一層の活性化をはかる。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

- 【活動指標について】 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
 【成果指標について】 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
 【備考欄について】 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的学習者の育成と確かな学力の向上	<p>◇質の高い授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、探究的な学びの推進等に組織的に取り組み、質の高い授業づくりを目指します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート（年2回）の実施 ・ICTを活用した授業についての情報発信及び共有の促進 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的」および「深い学び」に関するアンケート項目「学んだことを活用し、深く考える場があった」について、生徒の回答の③「ややあてはまる」および④「あてはまる」の割合の合計の値が90%以上、かつ④の値が40%以上 <p>【昨年度実績】</p> <p>前期 ③ 42.3% ④ 45.1% ③+④ 87.4% 後期 ③ 44.9% ④ 39.6% ③+④ 84.5%</p> <p>◇主体的な学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期指導を充実させ、主体的に学ぶという意識付けをしつつ、徐々に手を離していくことで、生徒の自律を促します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めの1・2週間程度を「ガイダンス週間」と位置づけ、全ての科目でガイダンスを実施。 ・1学年においては一人一台端末の活用のための土台を形成するための「Chrome ガイダンス」を実施 ・学習意欲の向上を図るため、「高い志」を持たせるとともに「学ぶ意義」を意識させることを、継続的に発信 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活についてのアンケート」項目「意欲的に学習に取り組んでいるか」について、生徒の回答の②「だいたいできている」および③「できている」の割合の合計の値が80%以上、かつ③の値が33%以上 ・今年度は前期の授業アンケートでも同様の調査を実施かつその理由についても調査し、改善につなげる。 <p>【昨年度実績】</p> <p>1学年（現2学年）② 54% ③ 22% ②+③ 76% 2学年（現3学年）② 45% ③ 31% ②+③ 76%</p>	<p>・7月に実施した前期分の授業アンケート結果。「学んだことを活用し、深く考える場があった」の回答は③+④が88.3%(R4前期比0.9%増)、④が45.9%(R4前期比0.8%増)でした。</p> <p>・3月に実施した後期分の授業アンケート結果。「学んだことを活用し、深く考える場があった」の回答は③+④が90.8%(R4後期比6.3%増)、④が48.1%(R4後期比8.5%増)でした。</p> <p>・1月に実施した学校生活についてのアンケート結果。 1学年② 50% ③ 20% ②+③ 70%(R4 6%減) 2学年② 56% ③ 19% ②+③ 75%(R4 1%減)</p>	◎

改善課題

- ・津高校としての初期指導の確立が必要です。また、放課後の指導についても同様です。学習指導については、教科や学年ごとに異なるだけでなく、担当者によって違いが大きい事例も見られ、学習指導委員会および教務部が主導して方針やルールを定める必要があります。
- ・学校生活アンケートの「意欲的に学習に取り組んでいるか」について否定的な回答した生徒 159 人(26%)のうち、98 人の記述回答の要点を以下にまとめました。このような生徒をどのように減らしていくかということについて、仮説をたて、学校全体で実行していくことが必要です。
 - 学習習慣の不足: 日常的な勉強習慣が身についておらず、試験期間にのみ集中的に学習する傾向がある。
 - 興味・好奇心の欠如: 特定の分野に対する興味や好奇心が感じられず、学習への喜びを見出せていない。
 - 誘惑への屈服: スマートフォンの使用やテレビ鑑賞など、他の活動に時間を取られやすい。
 - 体調・疲労: 部活動や家庭の事情で疲れており、勉強に取り組むエネルギーが不足している。
 - 計画性の欠如: 課題やテストの準備を後回しにして、試験の直前に詰め込む傾向がある。
 - モチベーションの低下: 成績が上がらないことでモチベーションが低下している。
 - 自己管理の難しさ: 学習に取り組む意思はあるが、実際に行動に移せない。

項目	取組内容・指標	結果	備考
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「高い知性と教養を持ったリーダー」の土台となる「自主・自律」の精神の涵養を目指し、生徒が必要な情報を自ら分析・判断し、実際の行動に移せるような資質を養うことを目指します。 【活動指標】 ・生徒が将来について考えられる機会の提供【生徒参加企画等】 ・本校入学者・地域から期待される進路保障【進路希望実現等】 ・日々の学習と社会の接点が意識できるような活動を提供することによる社会貢献の意識の向上【授業内活動・生徒参加企画等】 【成果指標】 ・第一進路希望実現率等 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR や長期休暇等を活用し、進路について調べ、まとめる活動を各学年で実施できました。 ・新型コロナウイルスの関係で中止になった校外活動を復活し、従前に実施していた企画を行うことができました。具体的には、東大キャンパスツアーやフィールドワーク、医療系現場の見学などです。 ・11 月時点の志望校(国公立、私立含む)に 62.5%の生徒が出願しました。 	※

改善課題

- ・ICT の活用をさらに進めるとともに、アナログとデジタルのハイブリッドの形で生徒の進路学習の充実を図ることができると考えます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 人権を重んじ、自由と責任を自覚した人間の基盤となる力をあらゆる教育活動の中で培います。 2 生徒の自主性を大切に人権学習を展開します。 <ul style="list-style-type: none"> 【活動指標】 ・各学年で行う人権アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで 93%の生徒が人権意識や社会への関心が「高まった・まあまあ高まった」と評価しました。 	◎

改善課題

- ・様々な人権問題を、身近な自分に関係ある問題として捉えることのできる課題設定や授業内容をさらに考えていく必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立を目指します。 2 社会生活におけるマナーの向上を目指します。 【活動指標】 ・交通安全・登校指導週間、完全下校巡視、校内巡視、情報モラル講座の実施 ・生徒会活動、HR活動、部活動、課外活動の奨励 ・各種教育活動の実施 【成果指標】 ・部活動への加入率等（90%以上の継続を目指す）※兼部を除く ・互いの人格を尊重し、他人を思いやる心の育成 【活動指標】 ・各種集会での講話等の実施	・登下校指導を実施することで、通学路の生徒の安全やマナーの向上、挨拶の徹底につなげています。 ・生徒会行事や部活動を通じて、元気で、積極性とリーダーシップのとれる生徒の育成を目指しました。 ・互いの人格を尊重することをねらいとし、集会等での講話を実施し、モラル等に関して意識づけをしました。	※

改善課題

・今後もアプローチの仕方を工夫しながら進める必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
国際教育	◇SSH事業等を活用した国際交流活動の推進 ・国際的な視野の育成を図ります。 【活動指標】 ・台湾の高校生との交流回数と内容（オンライン含む） ・次年度SSH台湾研修の計画立案 ◇各種団体の主催する国際交流活動への参加を促進 ・県教育委員会主催の海外研修等への参加を推奨します。 【活動指標】 ・国際交流活動参加生徒の、のべ人数	・台湾中山高級中學の生徒達との交流をオンラインで9回実施しました。参加生徒数はのべ105名でした。 ・6名の生徒が台湾中山高級中學を訪問し、研究発表、授業への参加、フィールドワークを実施しました。 ・台湾中山高級中學の生徒30名が本校を訪れ、共同研究の発表、フィールドワークや授業、部活動等で本校生徒と交流しました。	

改善課題

・姉妹校との相互交流を持続可能な取組にする工夫が必要です。

項目	取組内容・指標	結果	備考
文化活動の推進	◇読書生活指導の充実 ・本校図書館は、「自主・自律」の校訓のもと、高い知性と教養を持ったリーダーを育成するため、読書生活を支える場、文化的教養を育てる場、自主学習の場、交流の場として、幅広い知識と豊かな情操を養う資料を収集整備して、活用の充実に努めるとともに、文化活動を通じて文化的教養を育成します。また、これらの活動を自校だけのものではなく、他校の図書館も視野に入れた活動にしていきます。 【活動指標、成果指標】 ・読書環境の整備、利用の促進（貸出9,000冊、生徒貸出率50%）	貸出冊数 8,669冊 生徒貸出率 43.7% （2月末現在） ・子ども読書推進事業においてモデル校に選ばれ、黒板本棚や、Webを利用した感想の共有システムなどを導入し、他校の図書館と連携し	※

	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌・学年・教科等との連携、およびSSH、LHR、授業等への支援 ・読書感想文コンクール、読書感想画コンクールへの応募、及び上位入賞 ・蔵書管理のシステム化、「学校図書館資料共有化ネットワーク事業」の推進 ・図書館を文化情報センターとして位置づけた、文化・学習にかかわる情報収集と情報発信 ・図書館文化講演会、ビブリオバトル、ギャラリー展示、青空図書館、図書館Live、車座トーク、図書館図鑑講座、みんなの本棚等生徒参加企画の実施 <p>◇芸術鑑賞の奨励</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA主催の芸術鑑賞補助事業等への参加を積極的に促します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞事業等への参加人数 	<p>た活動を行うことができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館行事として以下を実施しました。青空図書館、匠の部屋、図書館図鑑活用講座、地形図活用講座、文化講演会、図書館ライブ、車座トーク、校内ビブリオバトル大会、朗読劇 ・第69回青少年読書感想文コンクールの結果 [三重県審査] 優秀賞1名、優良賞1名 ・第35回読書感想文コンクールの結果 [三重県審査] 最優秀賞1名、優秀賞2名、努力賞1名 ・三重県総合文化センター大ホールにて芸術鑑賞会(古典芸能)を実施しました。全校生徒に加え、およそ220名の保護者の参加がありました。 	
--	--	---	--

改善課題

- ・図書館の利用促進については、生徒貸出率を目標に乗せ、一層たくさんの生徒に図書館を利用してもらうことが課題です。
- ・読書コンクールについては、県内審査において感想文が優秀賞・優良賞を受賞したものの、全国コンクールに進むことができませんでした。次年度は全国コンクールに進み、全国入賞を目指して意識の高揚を図ります。
- ・図書館を文化情報センターとして位置づけた活動については、他校図書館や校外における諸活動とつながることができました。今後もさらに生徒のニーズを考え、普段図書館に立ち寄らない生徒を巻き込んでいく必要があります。
- ・芸術鑑賞会については、生徒が日頃体験できない芸術作品に触れることのできる貴重な機会として捉え、有意義な内容選定を行う必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
健康教育	<p>◇保健管理と保健教育、健康相談</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心身共に健康で安全な生活を自主的に実践できる能力および態度の育成に努めます。 2 健康診断、健康相談の充実と事後指導の徹底に努めます。 3 学年毎の健康重点目標に沿った健康教育の充実を図ります。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健講話(各学年1回) ・「保健だより」の年10回発行 <p>◇救急時の対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 安全に対する意識を高める指導を行います。 2 救急体制の充実を図ります。 <p>◇感染症予防への取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の早期探知及び生徒健康状況の把握を行います。(欠席状況調べ、健康観察等) 2 感染症を未然に防ぐ取組を進めます。(CO2モニターやサーキュレーターの設定、感染症に関する保健指導等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健講話:1年生「性教育」、2年生「薬物乱用防止教室」、「受験期の健康管理」を実施しました。 ・「保健だより」は定期号を12回、修学旅行前特別号(2年生)を1回発行しました。 ・消防署職員による救急救命講習を全教職員対象に行いました。 ・CO2モニター、手指消毒液自動噴霧器、サーキュレーターの設定等、 	◎

	<p>◇教育相談</p> <p>1 全ての教育活動をとおして、生徒の悩みや不安の解決に向けた支援や対応を行います。</p> <p>2 生徒を取り巻く環境を把握し、支援や対応を行います。</p> <p>3 保護者、担任、学年主任、保健室、部活動顧問等と情報を共有しながら支援や対応を行います。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる教育相談の実施(年 24 回以上) ・「教育相談だより」の年 3 回以上の発行 	<p>感染症対策を継続して実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーによる教育相談は、32回実施しました。 ・発達障がい支援員による面談は 1 回実施しました。 ・教育相談だよりは 4 月と 8 月、1 月の計 3 回発行しました。 	
--	--	--	--

改善課題

<ul style="list-style-type: none"> ・継続して安全意識を高め事故の未然防止に努めるとともに、危機発生時の救急体制について、教職員の共有をより強化していく必要があります。 ・担任、保護者、学年主任、養護教諭、管理職、関係する専門家と密に連携をとりながら生徒の支援を行いました。自ら相談に訪れる生徒は少ないので、相談しやすい環境を作り、担任や学年主任と情報共有し、丁寧な支援を行っていく必要があります。
--

項目	取組内容・指標	結果	備考
防災教育	<p>◇防災学習の充実</p> <p>1 避難経路、避難方法を年度早期において確認します。</p> <p>2 実際の場面を想定した避難訓練を実施します。</p> <p>3 「防災ノート」を活用した防災学習を実施します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練、防災学習の実施(年各 1～2 回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内からの避難経路などについて生徒、教職員で確認、共有しました。(4 月) ・校舎外へ一斉避難する訓練および屋上へ避難する訓練、「防災ノート」を用いた防災意識を高める学習を行いました。(10 月) 	※

改善課題

<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に防災意識を高める学習活動を継続的に行う必要があります。 ・避難経路の設定、非常時を想定した訓練方法など、引き続き検証を続ける必要があります。
--

項目	取組内容・指標	結果	備考
探究的活動の推進と SSH 事業への取組	<p>◇世界を牽引する次代の科学技術人材の育成を目的とした、「探究活動を核とし、すべての教育活動へつなげる科学教育システム」の確立</p> <p>1 探究的な学びによる生徒の資質・能力の変容の検証による新たな学びの確立に取り組みます。</p> <p>2 外部機関(大学/企業/海外)等との連携による専門性の高い学びの実現に取り組みます。</p> <p>3 教育資源の還元による中核的拠点校としての活動を充実します。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SS 探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「SS 博学科学」、「試行的な課題研究」の実施 ・「SS 探究活動Ⅱ」において、1 年間にわたる「課題研究」の実施、「SSH 児童・生徒研究発表会」での研究成果の発表 ・「SS 探究活動Ⅲ」において、2 年次の研究成果の論文作成、学会やコンテストで発表 ・「SSH 台湾研修」において、オンライン交流および相互訪問の実施 ・「SS 先進科学」「SS 生命科学」「SS 特別講義」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「SS 探究活動Ⅰ」において、「リベラルアーツ」、「SS 博学科学」、「試行的な課題研究」を実施しました ・「SS 探究活動Ⅱ」において、1 年間にわたる「課題研究」を実施しました。すべての生徒が「SSH 児童・生徒研究発表会」で研究成果を発表しました。 ・「SS 探究活動Ⅲ」において、2 年次の研究成果の論文を作成しまし 	◎

	<ul style="list-style-type: none"> ・「みえ探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」、「科学系クラブ合同交流会」、「三重県高校生学会」、中学生向け探究活動体験講座「探究道場」、「小中学生向け科学講座」等の実施 ・津高SSHホームページにおいて活動報告 	<p>た。一部の生徒が学会やコンテストで発表しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「SSH台湾研修」において、オンライン交流および相互訪問を実施しました。 ・「SS先進科学」「SS生命科学」を実施しました ・「みえ探究フォーラム」、「国際科学技術コンテスト強化講座」、「科学系クラブ合同交流会」を実施しました。 ・津高SSHホームページにおいて活動報告をしました。 	
--	--	---	--

改善課題

- ・「SS 探究活動」において、生徒が研究を深めるためには、対話やディスカッションの活動を充実し、研究テーマの設定に十分に時間をかける必要があります。2年次の年間を通じた課題研究に向けて、実現可能なテーマ、仮説の設定、検証方法等について、1年次にていねいに学ぶことが必要です。
- ・ICTを活用した協働的に探究活動に取り組めるよう、教員、生徒ともにICTスキルの向上が求められます。
- ・校外への研修や発表会の参加者の減少が課題です。その志を生徒、教員間で共有し、生徒が主体的に参加できるよう、適切な支援が求められます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
環境・美化教育	<p>◇環境美化、公共性の向上に向けた取組</p> <p>【活動指標・成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会による清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック ・美化委員によるゴミ分別のチェック（年10回程度） ・環境美化改善へ、生徒のアイデアを取り入れた取組の実施 <p>◇環境問題に対する意識の醸成</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「環境週間」を設け、その一日を「学校環境デー」として美化委員で美化活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会を6回開催し、清掃用具、清掃状況のチェックとフィードバック等を行いました。 ・集積場でのゴミの分別を美化委員がチェックしました。 ・学校環境デーを6月28日に実施し、校内の清掃活動を行いました。参加者は美化委員24人・教職員5人の合計29人でした。 	※

改善課題

- ・ゴミの分別は、地域によって分別方法が異なり、分別が紛らわしいものについては徹底が難しいことから、生徒・教職員への周知を徹底する工夫がより必要です。
- ・環境デーは、有志生徒の参加も呼びかけて約200名程度の人数で開催予定でしたが、当日天候不良のため延期となり、結果として美化委員のみで行いました。また、暑い時期の開催となり、参加生徒の体調も考慮して短い時間での活動となりました。今後は、開催時期と天候不良の場合の活動内容を検討していく必要があります。

(2) 学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
 【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
 【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力向上の取組と教育課程の研究・改善	<p>◇授業力向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究や授業公開、授業評価等をとおして、授業力の向上を図ります。また、ICTを活用することによって教員の業務負担を軽減し、取組に必要な時間を生み出します。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業力向上に向けた各教科の取組シート」の作成 ・全教科年1回以上の授業公開の実施 ・教科内において、授業研究を実施・研究協議の充実・教員相互で、授業力を向上 ・全教科年2回以上のICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告を行い、HP等で発信 ・保護者を対象とした授業公開の実施 ・生徒についてのデータベース構築及び一括管理 ・ICTの活用についてのサポートおよび業務の自動化とその提案 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、授業アンケートの結果を、授業改善のための資料として活用、成果の検証 <p>◇「カリキュラム・マネジメント」の視点から、日々の教育活動について組織的に改善をおこない、また、探究的な学びの指導方法や評価方法についての研究を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導委員会を中心とした様々な教員による、指導方法・評価方法の検討および実践の検証 ・観点別評価についてのデータ収集及び情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で「授業力向上に向けた取組シート」を作成しました。 ・各教科で授業公開を実施しました。 ・全教科で授業公開週間を設定しました。 ・ICT活用事例または探究的な学びに関する授業実践報告を全教科年2回行いました。 ・保護者対象の授業公開を5月に実施しました。 ・授業アンケートの改善に取り組みました。 	◎

改善課題

・授業アンケートの改善にあたって、「探究的な学びを各教科へ取り入れること」と「個別最適な学びの実現」の2点は、まだアンケートで確認する段階にないことと判断しました。この2点について、具体的な取組を進めていくとともに、「探究」推進部と連携して、教科の特性に合わせて適切な形を模索していく必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に関する情報共有 ・大学入試問題の分析や校内外模試を活用することによる教員の資質向上 	<p>◇進路指導に関する情報共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路決定に必要な情報を学年団に随時提供し、データを効果的に活用した指導體制の構築 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学入試の変更等にかかる情報提供 ・新課程による2025年度入試についての情報提供 ・校内外の試験の結果を基にした学年での成績分析会の実施 ・各大学・各予備校等の分析会・大学説明会の情報発信 <p>◇教員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内外模試の作問・分析を通して教員の資質向上 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各予備校等の分析会・入試問題研究会の情報発信 ・校内模試の実施による作問・分析力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中に発表された各大学の情報や予備校からの情報を整理し、学年団に適切に伝えることができました。 ・新課程に伴う2025年度入試についての情報を各学年団と共有できました。 ・校内外の成績データを基に分析会を実施し、情報交換や指導方針を共有しました。 ・予備校等の分析会・大学説明会の案内を随時行えました。 	

改善課題

・大学入学選抜の方法が多様化する中、生徒個々に応じた対応をしていく必要があると考えられます。また、一部の教員に頼ることなく津高校教員全員がさまざまな指導ができる能力が求められています。

項目	取組内容・指標	結果	備考
人権教育に関わる情報、方法の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人権教育に関わる研修、フィールドワーク、研究会等への参加を促進します。 【活動指標】 ・研修会の開催、「人権だより」の発行等 ・人権教育推進委員会の設置と情報の共有 ・人権教育推進協議会の開催、人権教育推進計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様な性について考える」研修を7月に行いました。 ・人権教育推進協議会を開催し、委員から多くの意見をいただきました。 	

改善課題

・教職員の人権意識を高めるための研修をさらに充実させる必要があります。

項目	取組内容・指標	結果	備考
生徒情報および指導方法の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの生徒理解に基づいたきめ細かな支援を行います。 【活動指標】 ・学年会等での生徒情報交換の実施 ・面談週間をはじめ、随時面談を実施 ・綿密な保護者との連携、情報共有 ・より良い関係構築に向けた校内での情報共有 ・特別支援教育にかかる教員研修の実施 ・特別支援教育推進委員会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談に関する研修会を8月に実施しました。 ・特別支援教育推進委員会を年2回（4月・1月）実施しました。 	◎

改善課題

・不登校の生徒が増加傾向にあることから、不登校支援に関わる研修を行いました。今後も実態に即した有意義な研修となるよう努めます。

項目	取組内容・指標	結果	備考
働きやすい職場環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の精選や改善、校内組織の点検等を行い、総勤務時間縮減を図ります。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 85%以上 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 ・1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退校できた教職員の割合 94%(2月末現在) ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100%(2月末現在) ・60分以内に終了した会議の割合 81%(2月末現在) ・年360時間を超える教職員数 31人(2月末現在) ・月45時間を超える教職員の延べ人数 155人(2月末現在) ・月平均時間外在校等時間 31.0時間(2月末現在) ・年間休暇取得日数平均 17.5日(2月末現在) 	

改善課題

・ICTの活用やSSS(スクール・サポート・スタッフ)の活用等により業務の改善を進めていますが、年 360 時間を超える教職員数、月 45 時間を超える教職員数等は増加しました。特定の期間に時間外労働は増加する傾向があるため、定時退校日や部活動休養日の設定等を行う等、総勤務時間を縮減する取組を継続します。

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>広聴・広報活動</p>	<p>◇学校関係者評価委員会による学校評価を実施します。 【活動指標】 ・学校関係者評価委員会の実施（年2回） ◇ホームページ（HP）の活用、自治会との連携 ・積極的にHPを通じた情報発信を行います。また、「津高校だより」等を通じて、地域の方々等に本校の現状や取組についてお知らせします。 【活動指標】 ・HPを活用し、連絡や行事等の活動・成果を掲載するため随時更新を行います。 ・「津高校だより」の発行（年間3回程度） ・報道機関への情報提供（年間5回程度）</p> <p>◇津高入門講座（8月）、学校見学会（8月）の実施 ・津高入門講座において、生徒スタッフによる本校の紹介等を通して、本校の魅力を広く伝えます。 ・学校見学会において、在校生が実際に活動している様子を中学生に公開し、本校の教育活動を理解してもらいます。 【活動指標】 ・津高入門講座・学校見学会への参加促進と円滑な運営、参加人数およびアンケート結果</p> <p>◇学校PR用動画、パンフレットの活用 ・生徒が主体となって学校PR用の動画およびパンフレットを作成し、広報活動に活用します。 【活動指標】 ・各中学校（生徒・保護者）への必要数配布</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者評価委員会を2回開催しました。（第1回・6月、第2回・2月） ・HPの更新をこまめに行うことができました(100回以上)。 ・津高だよりは2回発行 ・津高入門講座(8月)には中学生468名、保護者398名の参加申込がありました。 ・学校見学会(8月)には中学生780名、保護者359名の参加申込がありました。 ・津高入門講座、学校見学会ともに、アンケートの結果で「受検校選択の参考になった」との回答が94%以上でした。 ・生徒から募集したデザインで学校案内、クリアファイルを作成し、入門講座、学校見学会で配布しました。 ・各中学校に学校案内を必要数配布しました。 	

改善課題

・ホームページの活用等、情報発信をより効果的におこなう方策をさらに検討していく必要があります。
 ・学校見学会の運営方法について、見学者の自由度が低い、教職員の負担が大きすぎるなどの課題があることから、よりよい方法に変えていくことを検討します。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 探究活動の成果発表会では、生徒の主体的な姿を見ることができました。このような姿をしっかりと広報することも大切にしてください。一方で、「質問する力」が弱いと感じる部分がありました。また、探究活動が日常の学習に活かせるような取組を展開してほしいと思います。 ○ コロナ禍以降、学校を欠席することへの“ハードル”が下がり、全国的に不登校傾向のある生徒が増えている現状にあると思います。特に学力が高い生徒は特性が見過ごされがちなので、学校として対応できることを考えて取り組んでください。 ○ 一人一台の学習端末は、中学校では当たり前のように使っています。学習の振り返りなどをさせることによって慣れるとかなり入力が速くなり、学力も伸長しますので、活用しての学習が進む仕組みづくりを進めてほしいと思います。教員もスキルアップが必要です。 ○ 進学のための面接指導では、先生の都合が悪くなくても別の先生が対応してくれるなど、丁寧に取り組んでいただいています。多くの生徒が国立大学への進学希望を実現できるよう、先生方にもスキルアップをお願いしたいと思います。また、ざっくばらんに質問できる状況があると、生徒たちは安心できます。 ○ 大学でも改組を行うなど、魅力化に工夫をしていますので、高校も魅力化を図るための検討は必要だと思えます。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校生活についてのアンケートでは「意欲的に学習に取り組んでいるか」の問いに対して、約4人に1人の割合で否定的な回答をしていることから、授業における生徒の理解度を注視しながら、「進路希望の実現のために必要な力がついているか」の観点を大切にした授業改善を進めます。また、自身の伸長を実感しながら、意欲的に学習が進められるように、個に応じた学習方法のアドバイスにも取り組みます。 ○ 学習指導における ICT の活用を進めるとともに、一人一台学習端末の授業での活用が生徒の向上に効果的に機能するよう、校内でも活用事例を共有しながら、指導力の取組を進めます。 ○ 探究活動において、調査研究だけでなく、対話やディスカッションを通して、研究内容が一層深まるようにする必要のあることから、研究テーマの設定にあたっては、まとめ・発表までの工程を長期的に見わたすことができる力量をつけるとともに、発表力や質問力を高め、発表する活動を多く経験して探究力が高まるように取り組みます。 ○ 台湾の姉妹校との相互訪問が実現したことにより両校の交流は大きく前進しました。今後は、オンラインを活用した共同研究の深化を図るなどにより、両校の生徒が互いに高め合い、将来的には世界を牽引する科学的人材として活躍できるよう、発展的に持続できる交流を進めていきます。 ○ 令和5年度の「本を読もう！読書活動推進事業」において、モデル校として実践したアクションプランを基盤として、学校図書館をよく利用する生徒が、感想のデータベースを活用して一層機能的に利用することにつながるようにするとともに、学校図書館を普段利用しない生徒にも活用が広がるようにします。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が高い志を持ち続け、希望の進路を実現できるよう、教員間で情報共有を活発に行い、データを効果的に活用した進路指導を実践します。 ○ 生徒が安全かつ安心して学校生活を送ることができるよう、教職員全員が不登校や生徒の心の問題、特別な支援が必要な生徒への対応、さまざまな人権問題などについて、引き続き理解を深めるとともに、課題があれば早期に発見し、「チーム」として迅速な対応がとれるようにします。 ○ 学校のホームページを活用し、学校行事や部活動だけでなく、津高図書館の取組やSSH探究活動など、さまざまな観点から効果的に学校の情報発信を行います。 ○ ICT機器やデジタル採点システム等を教職員全員が有効活用して業務の効率化を図ることにより、授業研究や教科指導等のための時間を十分確保して、質の高い教育活動を展開します。 ○ 業務の精選やスクールサポートスタッフの活用、会議時間の短縮等により、時間外勤務を削減し、教職員が一層活力をもって教育活動に取り組めるようにします。